

農業セクターへのCOVID-19の影響、今後の予測と JICAの支援

国際協力機構（JICA）

経済開発部農業・農村開発第二G

天目石 慎二郎

1. COVID-19による農業・食料安全保障への影響



(1) 農業・食料生産の状況

- ◆ 2019年は豊作（過去最高）。世界的には食糧は十分。
- ◆ 2020年もコロナ禍前は豊作の予測

世界の穀物生産量				
	2017年	2018年	2019年 (推定)	2019年 増減率
全世界	2,705.5mt	2,657.5mt	2,719.4mt	2.3%
・アジア	1,201.2mt	1,198.5mt	1,214.4mt	1.3%
・アフリカ	191.4mt	196.7mt	187.6mt	-4.6%

Source: FAO "Crop Prospects and Food Situation March 2020"

(2) 農業・食料生産への影響

- ◆ 「封じ込め」によるSupply Chainの混乱、労働力不足発生。国レベルでは農業資材へのアクセス、食料価格上昇の動きあり。

2. 今後想定されるシナリオ（予測）

Supply Chainの混乱により、Supply SideとDemand Sideの関係が崩れることに起因し、今後様々な問題が顕在化すると予測。

◆農業生産

- 農業資材の確保困難：小農を中心に農業資材（優良種子、肥料）が適時に十分量確保できない
- 労働力不足：移動制限により作付・収穫期等に労働力が確保できない（特に一定規模以上の場合。インド等南アジアでは既に発生）

⇒ **作付面積・収穫量減少、収穫後ロスの増加・品質低下**

◆飢餓・栄養

- WFPは、迅速なアクションを取らなかった場合、急性の飢餓人口が現在の1.35億人（135mil）から2020年末までに2.65億人に達すると警告

◆その他（アフリカ、中東、南アジア）：サバクトビバッタの影響

サバクトビバッタの大発生 (主に東部アフリカ、中東)



- 天候不順により2019年末に東部アフリカで発生。中東、南アジア（パキスタン、インド）の計23カ国に広がる。数十年に1度の深刻な事態。
- FAOは10か国で緊急アピールを宣言（ジブチ、エリトリア、エチオピア、ケニア、ソマリア、南スダン、スダン、ウガンダ、タンザニア、エメニ）
- FAOは、東部アフリカを中心に4,200万人が食糧不足に陥り、1,200万人が国内避難民化すると予測。
- 東部アフリカでは第二波が発生。6月の収穫期と成虫となる時期が重なる。食糧生産に甚大な影響を与える可能性あり。

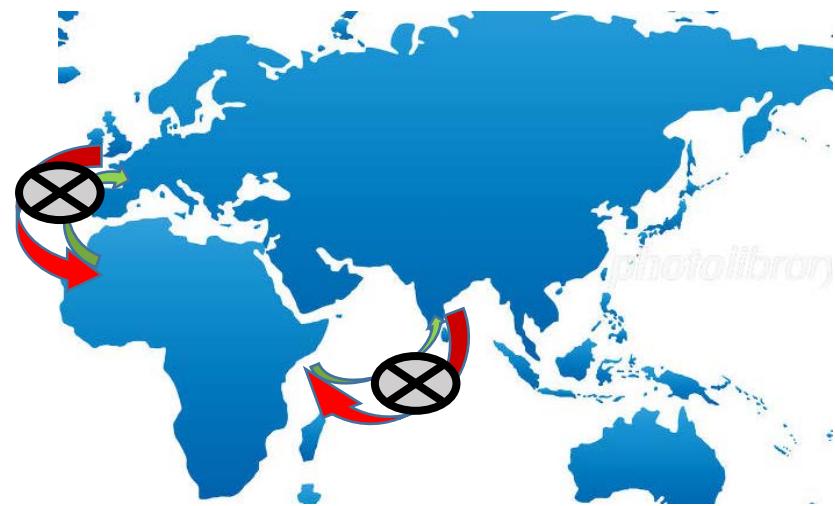


写真：FAO

3. JICAの農業分野コロナ支援策



1. 国際・地域レベル



- アフリカ：食料の輸入依存度が高い。肥料の大部分は輸入。Supply Chain の混乱による懸念大。
- アフリカ、南アジア等では農産物は主要輸出商品。

JICAの支援

2. 各国レベル



○農業生産

- Supply Chainの混乱により、農業投入財の確保が困難に（優良種子、肥料）。
- 労働力不足（作付、収穫に影響。要機械化）

○栄養

- 脆弱層は収入減により主食中心に。野菜、肉・乳製品摂取減で栄養バランス悪化。

緊急・短期：物流の混乱による農業生産への影響の最小化
中・長期：農業・食料生産のレジリエンス向上

3. JICAの農業分野コロナ支援策



◆緊急：必要な支援を迅速に展開

■実施中の案件を通じて実施。

- ・ 農業資材の供与（種子、肥料を中心に）
- ・ 栄養補給・衛生関連物資の供与、他

■各国により状況は異なる。今後の状況の変化に注視し、的確かつタイムリーな支援を実施する方針。

◆短期的：次期作の安定的な農業生産・食料安保、栄養改善、生計向上

- ・ 生産：農業資材の供与(種子、肥料等)、機械化支援(収穫、収穫後処理)
- ・ 栄養改善：感染予防や栄養改善の啓発活動強化、学校給食推進
- ・ 生計多様化：収入創出活動の推進(野菜・果樹、畜産・水産、農産加工、衛生関連)

3. JICAの農業分野コロナ支援策



◆中・長期的：農業・食料生産のレジリエンス向上

- 安定的な農業生産、食料自給率向上、栄養改善
(食料の輸入依存からの脱却、特にアフリカ)
 - 稲作/アフリカ稲作振興のための共同体フェーズ2 (CARD 2)
 - ✓ 2019～2030年にアフリカのコメ生産倍増を目指す(2,800万t⇒2,800万t)
 - 栄養改善/食と栄養のアフリカイニシアティブ (IFNA)
 - ✓ アフリカの子ども 2 億人の栄養改善
- Supply Chainの再構築・短縮化(物流の影響を小さくする)
 - ✓ SHEP (Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion)、
近隣マーケットへの出荷、地産地消、デジタル化

どうもありがとうございました。